

取組概要

取組名	① 病床稼働状況の通知文書掲載
RX 区分	業務・運営 RX
部署名等	上原キャンパス事務部医事課医事係／情報管理係
取組目的または背景	「病床稼働状況」を全職員に通知するため、毎朝 1 回、担当職員がポータルシステム（掲示板）に文書を掲載しているが、休日等の場合は対応が難しく、平日のみに限定していた。本作業はルーティンワーク化されている事もあり、RPA 技術を活用して検証を行い、一定の実施効果を得られたため、DX の取り組みを開始した。
取組内容	ロボット専用アカウントで「病院情報システム（ポータルシステム）」にログインし、掲示板機能を利用して、「病床稼働状況表（※Windows タスクスケ機能により自動生成）」を添付する RPA プログラムを開発した。タスクスケジュール機能を利用し、毎日 1 回自動実行する事により、平日のみならず、休日でも対応可能（365 日）とした。
実施効果	平日限定だった掲示作業の登録業務は休日等でも対応可能になった。また、定型業務を RPA 化した事で、担当職員がこれまで人力で行っていた作業から解放され、年間約 30 時間の作業時間を削減する事が出来た。

取組名	②肺血栓管理料（305 点）の算定漏れ電子カルテ付箋貼り
RX 区分	業務・運営 RX
部署名等	上原キャンパス事務部医事課情報管理係／診療報酬係
取組目的または背景	「肺血栓塞栓管理料（305 点）」の指示漏れにより、算定率の低さが当院の課題となっている。算定率向上のため、担当職員が電子カルテシステムの付箋機能を利用して督促案内を行っているが、対象患者（1 日平均：約 10 人）が多く、担当者の負担増となっていた。本作業は、定型業務となっている事から RPA の得意領域であり、DX 化への取り組みを行った。
取組内容	「病院情報システム」により、算定漏れ患者を抽出してリスト化を行った。ロボット専用アカウントで「病院情報システム」にログインし、担当職員のワークフローに従って付箋貼りをする RPA プログラムを開発した。タスクスケジュール機能を利用し、毎日 1 回自動実行する事により、毎日対応可能（365 日）とした。
実施効果	定型業務を RPA 化した事で、担当職員がこれまで人力で行っていた登録作業から解放され、年間約 200 時間の作業時間を削減する事が出来た。また、RPA 化前は月平均で約 196 件だった算定件数が、RPA 化後は約 240 件まで向上した。

取組概要

取組名	③退院サマリ督促
RX 区分	業務・運営 RX
部署名等	上原キャンパス事務部医事課情報管理係／病歴事務係
取組目的または背景	医師による退院サマリの作成は、特定機能病院として義務付けられ、また診療報酬上、退院後 2 週間以内 90%以上の作成が加算要件となっている。期限内作成率向上のため、担当者が病院情報システムのメール機能を利用して督促案内を行っているが、対象患者（1 日平均：約 20 人）が多く担当者の負担増となっていた。本作業は定型業務となっている事から RPA の得意領域であり、DX 化への取組みを行った。
取組内容	「病院情報システム（文書管理システム）」により、入院患者を抽出して、Excel_VBA を利用してリスト化を行った。ロボット専用アカウントで病院情報システムにログインし、担当職員のワークフローに従ってメール送信をする RPA プログラムを開発した。タスクスケジュール機能を利用し、毎日 1 回自動実行する事により、毎日対応可能（365 日）とした。
実施効果	定型業務を RPA 化した事で、担当職員がこれまで人力で行っていた作業から解放され、年間約 204 時間の作業時間を削減する事が出来た。土日祝も自動化することで、担当者が不在の日も滞ることなく連絡する事が可能となった。また、長期連休などの休日出勤対応や連休前の業務過多もなくなった。